

議 事 概 要

会議名	令和 5 年度 第 2 回 男女共同参画センター運営協議会	
日時	令和 5 年 7 月 21 日 (金) 19:00~21:00	
場所	中央公民館 3 階 第一会議室	
出席者及び 欠席者	出席者	11 名
	欠席者	3 名 (木村美由紀委員、緑川啓太委員、高野好央委員)
	事務局	町民生活部 町民活動課 男女共同参画センター
	傍聴者	なし
次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 令和 5 年度講座について ①第 1~3 回講座の準備状況報告 ②第 4 回以降の講座について (2) パネル展について (3) センターだよりについて (4) その他 4 閉会	
あいさつ (会長)	<p>前回、皆さんからいろいろな話を聞くことができ、「男女共同参画」という言葉を考える機会となった。</p> <p>やはり、男女で分けて考えてしまうと、子供たちに余計なバイアスを掛けてしまうという認識がものすごく強くなってきた。</p> <p>男女共同参画という名前は国との絡みがあるが、ダイバーシティ(多様性)ということで、男女にかかわらず全ての人が過ごし易い世の中にするということを根本に考えて行けたら良いと思う。</p> <p>また活発に有益な意見を交わせたらと思うのでよろしく願います。</p>	
議題	<p><「男女共同参画」と「講座」の結びつきについて></p> <p>事務局から「阿見町第 4 次男女共同参画プラン (令和 4 年 3 月策定) 概要版の P2」を用いて説明</p>	
事務局	<p>前回会議で各委員から「男女共同参画」と「講座」との結びつきが理解しにくいとの発言が多かった。このことについて、事務局からは、「男女共同参画」を狭義ではなく広義(D&I)に捉えており、その方向で講座も考えて企画している旨を説明した。このことを十分共有することは重要であるので、資料を用いて補足説明させていただく。</p>	

議 事 概 要

事務局	<p>私たちは現在この第4次プランの推進、目標達成に向けて行動しているところである。施策の内容はさらに細分化されており、担当課の割振りもある。講座は、このような施策を実現するための一つの手段として、当センターが対応可能な範囲でこれらを念頭に企画するものと理解している。該当する施策が一つであったり、複合的であったりはあるものと思うが、一例を挙げれば、第3回講座は、基本目標3－施策方向1－No.28（心の健康づくりの推進）に該当すると考えている。</p>
井上委員	<p>ある自治体で「母親と子供の防災」という小冊子を作成したところ、「何でこのようなものに予算をつけたのか」との苦言があったとのこと。例えば「防災」をテーマにする際は「男女共同参画」との位置づけ関連付けをしっかりと説明できるようにしておく必要がある。</p>
会長	<p>※当運営協議会として共有できたと理解した旨の発言あり。</p> <p>(1) 令和5年度講座について</p> <p>①第1～3回講座の準備状況報告</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局から説明後、質疑応答。</p>
事務局	<p>ア「第1回（キャノン環境出前授業）」、イ「第2回（サイバー犯罪の現状と被害防止対策）」、ウ「第3回（心の健康、大事にしていますか メンタルヘルス セルフケア）」の3件は、前回会議に諮り、準備に要する時間的なことも考慮していただき、了解をいただいた。現在準備を進めており、その進捗状況を報告する。</p> <p>アについて：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催会場にて講師予定者とリハーサル及び最終打合せを行い、概ね準備を完了している。 ・実験装置も充実しており、多くの応募を期待しているところだが、現時点では応募が全く少ないことから、委員の方々にも声がけなどご協力いただきたい。 <p>イについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報あみ（8月25日発行）に募集案内を掲載予定。チラシは今後作成。 ・講師予定者によれば、参加者の年齢層などを考慮して内容を構成することのこと。

議 事 概 要

会長	<p>ウについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師を依頼する際に必要な手続きを先行して進めているところ。 ・どのような内容がよいか、具体的なお意見があれば、講師予定者に相談して行きたい。 <p>冒頭に事務局から「男女共同参画」と「講座」との結びつきについての整理・考え方の説明があったが、やはり違和感がないわけではない。企画する側がこのような状況であれば、申し込もうとする人はなおさら疑問に思うのではないか。せっかくなので、講座の際は、趣旨を大きくアナウンスして伝えた方が良いと思う。アについて、事務局からの趣旨の説明（男女関係なく科学に興味を持ってもらう）は、女性は科学にあまり興味を持っていないとの先入観と捉えられかねない。講座を考える際に、現状を知った上で男女共同参画に結び付けるように持って行かないと反発を招くおそれがある。</p>
佐藤委員	<p>講座をやるからには多く参加してほしい。そのための広報手段として、昨年度は「あみメール」の利用も挙がっていたが。</p>
事務局	<p>広報手段としては、あみメールの発信、町 HP や広報あみへの掲載、町内施設等へのポスター掲示とチラシの設置、一般募集の場合は範囲を広げて大学、高校、さらには銀行やスーパーなどにもポスター掲示等を依頼している。興味を持ってもらえればいいのだが難しい。講座の参加者からは、申し込む前は敷居が高いと感じたが、参加してみるとそうでもなく有意義だったとの声を多く聞いている。</p>
遠藤委員	<p>男女共同参画と結びついた防災の講座については、これまで何回も聞いてきているが、トイレ・風呂・生理用品が云々と形から入るものが多い。本当に防災の中で男女参画して何をしたらいいのかというのをきちんと理解している人に話を聞きたい。※4回目以降の講座に係る意見</p>
新橋委員	<p>講座全体に関わる問題として、参加者が思うように集まらないことが大きな課題となっている。テーマ・内容については身近な問題や関心事を対象としているとは思いますが、なかなか皆さんに周知しきれていないと思われる。広げて行くにはどうしたらいいか、一つの案としては、区長会（自治会）に協力いただくというのもあるのではないかと。</p>

議 事 概 要

会長	<p>人集めというのが、どの団体においても一番大変こと。人集めに関するアイデアを出してほしい。</p>
井上委員	<p>講座の名前(題名)が全然ダメ。例えばアの場合、小学生を対象にした夏休みの自由研究の機会として、キャノンがいろいろ教えてくれてそれが自由研究になるというようにアピールした方が良い。そうすると保護者も飛びつく。そして、講座の中で、小中学生意識調査報告書の一部でも紹介し、こういうことも自由研究になるかもしれないという話を男女共同参画センターが付け加えれば、男女共同参画とも結びつくのではないか。</p>
会長	<p>チラシの内容はものすごく大事である。作る側ではなく、見る側がどう思うかが人集めに非常に大事であると承知している。</p>
國武委員	<p>アについて、対象が町内小学生とあるが、町外は全く対象とならないのか。</p>
事務局	<p>一律町外は対象とならないとする決まりはない。これまでの事例から、小学生を対象とした講座は抽選になるほどの応募があるため、町内を優先している。応募が少ないようであれば対象範囲を広げるので、その際はあらためて協力いただきたい。</p>
遠藤委員	<p>講座の人集めについて、これまでの経験から、私たちが周囲(友達等)に声掛けすることが一番人を集めやすい。また、各団体に講座案内と参加依頼の手紙を出すのも一つの方法かと思う。</p>
佐藤委員	<p>タイトルはもっと身近な感じのものが良い。例えば、ウの「心の健康、大事にしていますか」は、呼びかけ型で身近に感じるものかと思う。</p>
事務局	<p>タイトルについては、どこまで攻めていいのかわからない面もあり非常に悩ましいところ。この場でなくてもいいので、アイデアをいただけると助かる。</p>
会長	<p>デザインを仕事としている経験から、キャッチ・コピーは嘘がなければ攻めていい。まず見てもらい興味を持ってもらうことが大事である。</p>

議 事 概 要

	<p>最初に小さい字は絶対見ない。大きい文字のところを攻めたものを載せれば何だろうと思ってもらえる。</p>
会長	<p>これまでの事例からすると、子供を対象にすると集まり易いようだ。親の立場からしても、夏休みに連れて行ける場所であり、しかも勉強になりそうと考える。</p>
近藤委員	<p>どういう人を対象にするのか、どういう人に来てもらうか、どういう人が来るのか予想したりして、具体的にイメージしてキャッチ・コピーを考える必要がある。漠然としたものでは誰にも刺さらない。</p>
事務局	<p>キャッチ・コピーはセンスの問題があるので、ぜひアイデアをいただきたい。対象を絞ることについては、ギャンブル的なところがあってもなかなか勇気がいるので踏み込めていない。対象者をどうするかについてもご意見をいただきたい。小中高の教育機関は自らも授業を行っており、そこに入り込むことは難しいのが現状である。</p>
会長	<p>チラシの作り方にかかっている。対象者に刺さるようなものとする。</p>
近藤委員	<p>事務局としては、イについては誰を主な対象者と考えているか。</p>
事務局	<p>漠然とだが、このような問題に最も接点が多く被害も多いと思われる高校生～大学生を想像している。</p>
近藤委員	<p>若い人は「サイバー」と聞いても「ハイハイ」という感じ。</p>
事務局	<p>自分が誹謗中傷等の被害者になったり、逆に自分が意図しない拡散をしてしまったりと、自分が当事者になった時にはやはり焦るのではないか。講師としては、警察、法律家（弁護士）、通信会社等を考えたが、当事者になった時の対処法について担当部署の現職警察官に話を聞くことが一助になると考えて企画したもの。</p>
佐々木委員	<p>イは高校で授業としてもいい内容だと思う。パソコン等を扱う人であれば押さえておくべきものとする。男女に関わる問題も含まれている。その意味で、高校（生徒会の担当教諭など）にも働きかけてはどうか。</p>

議 事 概 要

事務局	<p>昨年企画した講座も霞ヶ浦高校に案内したが、講座当日が授業日だった。今回も霞ヶ浦高校に案内する予定であり、授業日とも重ならないと思う。</p>
会長	<p>「サイバー」という言葉が曖昧で再考が必要かもしれない。若い人がトラブルに巻き込まれてほしくないとの思いから大人は高校生などにも聞いてほしいと考え、一方で若い人は「そんなことはある程度わかっているよ」ということで、双方にギャップがあるので、応募してくれるかは微妙なところ。</p>
佐々木委員	<p>そのような観点からすると、ウも同様である。メンタルヘルスの前にまず体が健康であること。そこのバランスが崩れてメンタルのほうに現れてくるというふうに捉えるのが普通ではないか。本人はメンタルが不調と思っているけれども、実はもう体に症状が現れる段階にきている、そのことを本人はなかなか気が付かないもの。高校生から対象とするなら、このような問題も含まれていることを働きかけてはどうか。</p>
今坂委員	<p>自分に、メンタルに不安があるな、サイバーに係る不安があるな、と置いていざ講座に申し込むか考える時、対象に「一般」とあると二の足を踏んでしまう。一回思い切って、対象を高校生とか大学生に絞ってみてはどうか。心配を抱える人なら応募すると思う。</p>
事務局	<p>高校は難しいが、大学であれば校門前でチラシを配ってもいいものか。反応はいいだろうか。ちなみに、あのケースは対象となる全児童にチラシを配った。</p>
会長	<p>対象者の絞り込みに関する意見、特に若い人たちからの意見というのはこれまでになく、今回が初めてである。絞り込みがむずかしいのであれば、チラシ作りをもう少し工夫するとか、何かアイデアが必要になる。</p>
事務局	<p>キャッチ・コピーが大切とわかっているけど、どうしても表現が硬くなる。</p>
井上委員	<p>行政文書になっている。</p>

議 事 概 要

事務局	<p>イについて、締め切りの関係で広報誌への掲載文の変更は難しいが、チラシ作成はこれからなのでご意見をいただきたい。この場でなくともメールで連絡をいただきたい。</p>
佐藤委員	<p>チラシ作成、キャッチ・コピーを考える際に、ChatGPT（チャット生成 AI）を使用できないか。</p>
事務局	<p>役所では使用不可となっている。皆さんからの提案という形であれば問題ない。</p>
会長	<p>佐藤委員に協力をお願いしてよいか。</p>
佐藤委員	<p>試してみる。</p>
井上委員	<p>イについて、「サイバー」といっても広すぎてどこを指すかわからない。ネットのいじめ、闇バイトに会わないためとか、もう少しわかりやすい言葉が望ましい。例えば「ネットのいじめに会っていませんか」、「ネットのいじめに巻き込まれたら～しましょう」、「巻き込まれないためにどうしたらいいか」といったような言葉。</p> <p>場所についても、実穀ふれあいセンターは不便ではないか。例えば「さわやかセンター」などもある。</p>
会長	<p>実穀ふれあいセンターは場所的に外れたように思う人もいるかと思うが、駅からを考えたらそれほど遠くなく、また、建物を改修したので新しくなっている。</p>
井上委員	<p>イトウについて募集人数を 20 人だけとしているが、会議室をとってもう少し多くしてもいいのではないか。</p>
事務局	<p>募集人数については、集客の難しさから臆病になっている。予約している部屋の定員は、募集人数より多いので、いざという時は対応可能と考えている。</p>
井上委員	<p>これまで言われているように、ターゲットがどこかよくわからない。「一般」なら一般の年配の方が入るし、若い人を対象とするなら、何か</p>

議 事 概 要

	<p>的を絞ったほうがいいと思う。</p>
<p>迫田委員</p>	<p>本日の最初の方で会長から「男女共同参画とそう繋がっているかを絡めて広報(チラシ作り等)したらどうか」という話があった。しかし、そこも兼ね合いというか、何を前面に出すかを考えることは難しいなと感じた。男女共同参画やD&Iを前面に出すことでのマイナス面もあるかもしれない。</p>
<p>新橋委員</p>	<p>ウについて、場所と募集人数はこれからということだが、内容は良いものと思うし多くの人に聞いてもらえればと思う。教室のような所で20人程度で行うということだと講師の方も力が入らないのではないかな。</p>
<p>長尾委員</p>	<p>ウについて、誰に向かっての講座なのか疑問。当人なのか、私の仕事とも関係するがマネジメントする側の人かで全然違ってくる。講師予定者の著書も見たが、今回は部下を持つ上司への話か、まさに今心を病んでいる当人への話なのか、当人が対象だとしたら、「心の健康を大事にしていますか」というタイトルでは応募しにくいと思う。いずれにしても、誰に向かっての講座なのかを明確にした方が良い。</p>
<p>事務局</p>	<p>ウについては、以前紹介した冊子の内容が良かったと思い、その冊子作成に関与された方を講師に講座として企画したもの。冊子には、知識・予防・対処法・周囲の関わりとの4本柱となっている。限られた時間で全部は無理なので、誰をターゲットに、何をテーマにするか、ご意見をいただきながら対応したいと考えている。</p>
<p>井上委員</p>	<p>対象者がマネジメントする側の人であれば、阿見町内の会社の人事担当などに声をかけてはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>先方とは、事務手続きを先行しており、内容についてはまだ詰めていない状況である。講師予定者は産業医なので、対象者やテーマの希望を伝えれば対応してくれるものと思う。対象者としては、今比較的健康的な人たちで、発症予備軍まで広げると重くなると考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>対象者がわかるような記載が必要になる。</p>

議 事 概 要

長尾委員	<p>メンタルで悩んでいる人は自分ではわからないもの。どちらかというと、上司や教師などの「メンタルヘルスマネジメント」、そして周りの人の理解が大事ではないかと思うし、興味があるのではないかな。</p>
事務局	<p>2年前にメンタルヘルスケアの講座（女性ホルモンの変化によりメンタルが崩れやすいといった内容）を行った際に、女性はもちろん、職場に女性がたくさんいる男性上司の参加があった。その男性は女性の部下にどう対応していいかを聞きに来たとのこと。情報はネット等にも多くあるが、専門家に直接聞く機会はなかなかないので、講座終了後も講師に熱心に聞いていた。今回の対象者としては、予備軍を加えてしまうと、本人は自覚がないので、それよりも周りの人が予備軍にさせないようにするにはどうすべきか、ちょっとした変化を見逃さないようにするための講座というのが大切かなと思う。</p>
会長	<p>ウについては方向性が見えてきたと思う。一応、ア～ウについてはいろいろ意見が出たので、それをもとに検討していただきたい。</p>
事務局	<p>整理・復唱させていただく。アについては、開催日が近いので進めさせていただくこととし、応募状況が不調の場合はあらためて対応を検討する必要があるかもしれない。イについては、広報への掲載文は締め切りの関係で意見を踏まえた修正は困難な面があるものの、チラシ作成はこれからなので、本日に限らず、ぜひアイデアをいただきたい。段取り・日程の関係から、イ及びウのチラシの図案やキャッチ・コピーなどのアイデア、さらには4回目以降の講座などについても8月10日までに提供いただければ助かる。</p>
会長	<p>ここで言えなかったことを含めて、事務局に送っていただきたい。</p>
事務局	<p>イについて、ターゲットを少し絞ったほうが良いとの意見があった。募集対象・定員欄に何かいい書き方があれば使用してみたい。</p>
会長	<p>チラシ然り、「サイバー犯罪」という言葉の問題やチラシ等に何を載せるか、どこを対象にするのかということ、皆さんの意見をもとにもう少し検討していただきたい。</p>
事務局	<p>ウについて、不安そうな人に対し、周りにいる人が気づいてあげられ</p>

議 事 概 要

	<p>るようというこを主眼に置いた構成にしてはどうかとの意見が大勢であり、そのような方向で進めたいと思う。</p>
<p style="text-align: center;">会長</p>	<p style="text-align: center;">見守る側を対象とすると理解した。</p>
<p style="text-align: center;">遠藤委員</p>	<p>イについては若い人を対象にする方向のようだが、内容的には私たち世代も知りたいことを含んでいるので、今回うまくいったなら、次回は私たち世代にも光をあててもらいたい。</p>
<p style="text-align: center;">会長</p>	<p>いろいろ意見を出していただいた。ぜひ皆さんも都合がつけば講座に参加してほしい。</p>
	<p>②第4回以降の講座について</p>
<p style="text-align: center;">事務局</p>	<p>今年度の事業全体の遂行にあたり、現状からは、会場の確保、他の事業、準備期間などの制約から、第4回講座を実施するとしたら、年内の実施は難しく年明け（1～2月）にせざるを得ない状況である。また、第5回講座にいたってはかなり難しく、3月に春休み企画を考える必要がある。やはり、4月～7月に1件でも入れていればと反省しているところ。次年度に向けて、今からその都度、事務局から／委員から逐次情報提供・共有を図りながら講座の企画を進めたいと考えている。現段階で、第4回講座として具体的なご提案をいただければ、実現に向けて対応できるのではないかと考えている。</p>
<p style="text-align: center;">事務局</p>	<p>事務局としては参考として3件ほど紹介する。そのうち2件（映画上映会&パネル展、防災出前講座）は前回も紹介した。あとの1件、前回話題に挙げた茨城大学の研究施設に関わる講座の可能性について調べてみたところ、以下のとおりであった。</p> <p>●遺伝子実験施設：HPを見る限りでは、バイオテクノロジー関連講座はあるようだが、あくまでも大学主催であり、内容も1-2時間ですむものではなかった。部屋のクリーンレベルの維持、実験機材や試薬の費用を考えてもこちらが絡むことは難しいと感じる。話を聞くだけであれば、講師派遣依頼を行えば可能性はあると思う。最近の動向からは、コロナ禍もあったのかあまり動いていないようだ。なお、女性教員については、当施設に専任助教の古谷綾子さんという方が、ま</p>

議 事 概 要

	<p>た、当施設運営委員会委員に理学部の野田悟子教授の名前があった。</p> <p>●水圏環境フィールドステーション：潮来市にある。ここでは教員による出前授業があり、次年度の夏休み企画の候補になるかもしれない。貴重な情報を得ることができた。なお、HP から教員名簿を見る限り、女性の方は見当たらなかった。</p>
事務局	<p>事務局としては、第4回講座について、次回会議（10月）に具体的な案を提示したいと考えている。そのためには、現時点で具体的な企画（テーマ）、情報（講師候補、団体等）が必要であり、提供願いたい。</p>
会長	<p>毎回話しているが、何年か前に大学生を交えて、「男女共同参画についてどのように思うか」をテーマにグループワークを行い、お互い発表するような形式の講座があった。このような講座がもうそろそろ出ないものか。</p>
事務局	<p>昨年度、浅木前委員から茨城大学の佐藤先生の紹介があったものの、令和5年度は受諾困難とのことであったことは報告済み。令和6年度に向けて、当方の希望を伝え、受諾可能かについて確認する予定である。</p>
会長	<p>とても有意義な講座だったので、ぜひ実現できればと思っている。</p>
遠藤委員	<p>前回は、茨城大学の学生サークルの人たちが核となって参加し、先生が取りまとめ役であった。</p>
事務局	<p>課題は2つ。1つは、核となる学生がいないと学生が集まりにくいこと、2つめは、講座を仕切る技量をもった人が必要であること。さらには仕切る人が学生を集められることができることが望ましいと考えている。なお、前回の核となった学生サークル「のらボーイ・のらガール」は現在存在しないとのこと。</p>
事務局	<p>昨年度、佐藤委員から、男女共同参画をテーマにした卒論の発表の場として提供し、その際に意見交換する形式はどうかとのアイデアをいただいた。このことも含め、まずは茨城大学の佐藤先生に連絡をとってみたい。</p>

議 事 概 要

近藤委員	歴史の授業の様態で男女に係る社会状況を「こういった社会だった」と過去のこととして紹介することで、若者が歴史を知り、「良くない時代だったね、今はこうだから感謝しないとね」といったようなそれぞれが自分なりに認識を持つようになればよいのではないかと。
会長	何事も平等というのは難しく、男女には絶対的な性差があることも知らなければいけないのではないかと、子どもたちに教えてもいいのではないかと思う。
佐藤委員	国際交流に関することも面白いかなと思う。昨年も企画候補に入っていたと思う。
会長	国際交流について、何か取っ掛りになるエリアの提案とか、歴史紹介の件も併せ積極的に情報提供願いたい。
事務局	歴史の振り返りについては、男女共同参画の分野というよりも、過去を振り返ると、それがその当時の常識で、しかし、今見るとおかしなところばかりで不公平・不平等に見えたりするところがあることに気付いてもらう。その気付きがないと、無意識のうちに自分も同じことを繰り返す可能性がある。そのことを知る機会になるものと理解している。
事務局	歴史の件においては、事務局からは映画上映会を資料とともに参考紹介している。講座を企画する上で、やはり、講師を誰にお願いするかが肝になる。いずれにしても、意見交換・グループワークなどを行うには、その場を仕切る人（とりまとめ役）が絶対必要になる（ただし、必ずしもテーマの専門家でなくともよい）。このことを含めて情報提供をお願いしたい。
事務局	役場では進行役（とりまとめ役）の養成を始めているが、まだ実践の域には達していない。
会長	第1回～4回以降の講座について、皆さんからの具体的な意見・提案・情報等はメールを介して事務局に提供することとする。今回の締め切りとしては8月10日とする。
事務局	当方のメールアドレスは、当方から皆さんにメールを送信すること

議 事 概 要

事務局	<p>で対応する。第4回講座は、具体的な情報をいただいた中で、コンタクトする相手が大体固まれば準備を進め、次回（10月）には進捗状況を伝えられたら良いと考えている。</p> <p>(2) パネル展について ※事務局から今後の予定についての説明があった（略）</p> <p>委員各位にも是非足を運んでいただきたい。</p> <p>(3) センターだよりについて ※事務局から今後の予定についての説明があった（略）</p> <p>(4)その他 ①次回（第3回）運営協議会開催日 日時：令和5年10月13日（金） 午後7時～9時 場所：中央公民館 3階 第一会議室</p>
-----	---